

平成 28 年度事業 中間報告書 (12 月 1 日現在)

コース	<input checked="" type="checkbox"/> 自主事業コース <input type="checkbox"/> 協働市民提案コース <input type="checkbox"/> 協働行政提案コース		
事業名	ひきこもりサポート事業～親子関係講座（導入編）と居場所作り～		
団体名	特定非営利活動法人 育々会		
市担当課名			
総事業費	377,000 円	市の負担額	300,000 円

①事業の概要 *事業の全体像を簡潔に記入してください。

ひきこもりの子どもを持つ親向けの親子関係講座を開催する。
同時にひきこもりの本人（若者～大人）の居場所作りも行う。

②事業の成果

*平成 28 年度申込書（様式第 2 号-1）に記載した「⑥事業の成果」に対応する 12 月 1 日までの成果を記入してください。また、実施した事業の詳細は「⑤事業実施記録」に記入してください。

・親が子どもとの関わり方を学び直したり、共通の悩みを持つ同士交流することで負担感が減る。
→参加した親は、子どもへの関わり方を客観視できた様子が見えた。親子での参加もあり、その場合はお互いを理解しようとする姿勢が生まれた。

・親が変わることで子どもへの変化が期待でき、外に出るきっかけになる。
→具体的な成果はまだ見えていないが、対象者に対するアプローチ方法の細分化が必要だとわかった

・周囲の者も関わり方を学ぶ事により地域で支える体制の基盤ができる。
→市の補助事業として開催する事で市民の関心が普段以上に寄せられ、地域で支える体制作りの第一歩となり得た。

*事業の成果を自己評価すると何点になりますか。計画通りであれば 100 点とします。

なお、想定を大きく上回る成果を得ている場合は 100 点を超える点数を記入してください。

50

点

③事業の課題 *事業を実施する中で浮上してきた課題を記入してください。

子どもがひきこもり等の親からの問い合わせは月に 10～15 件あるものの、当事者である子どもに講座を学ばせたいという問い合わせが多かった。一部親子での受講もあったが、当事者だけの受講にはいきなりは繋がらず、また本来の講座受講目的である親自身は、子どもをなんとかしたいという強い思いはあるものの、自分に対する問題意識はあまりない様子が多かった。そのためか実際の参加は親よりは、ひきこもりや人間関係に関心のある周辺の方の参加が多かった。また、当事者に関してはぬりえカフェに興味がある子は参加があったものの、それ以外は特に何もすることがないと参加が難しい様子である。もう少し親自身が参加しやすいよう切り口の工夫や、親子で参加しやすいイベントを企画する必要を感じた。

④事業実施記録 *実施した事業の詳細を記入してください。

実施内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
講座① 「色彩とエゴグラムで自己分析」	8/8 10~11:30	育々会サロンスペース	1人	2人
	9/24 19~20:30		1人	4人
	11/6 10~11:30		1人	5人
講座② 「コミュニケーションと雑談」	9/12 10~11:30	育々会サロンスペース	1人	2人
	10/29 19~20:30			5人
講座③ 「話し方聴き方ワーク」	10/17 10~11:30	育々会サロンスペース	1人	1人
	11/26 19~20:30			3人
専門家を交えた座談会 臨床心理士	9月4日(日) 10:00~12:00	くらしき福祉プラザ 102会議室	1人	6人
ぬりえカフェ	8/20	育々会サロンスペース	2人~3人	3人
	9/10			4人
	9/25			2人
	10/8			3人
	10/23			2人
	11/12			3人
	11/27			2人

⑤目標の進捗状況 *事業実施前に設定した目標のうち、特に力を入れて取り組んでいる目標を2つまで記入してください。また、その目標の進捗状況をパーセントで記入してください。すでに達成できている場合は100%になります。

<p>目標① 講座参加者の80%が継続的な講座受講の意思を示す事。⇒100%</p> <p>→ 参加者11名のうち9名が講座を3つとも受講して、引き続き学んでいきたいという意見をもらっている。</p> <p>目標② 講座参加者の子どもの20%が居場所作り(ぬりえカフェ)に参加する。⇒50%</p> <p>→親の講座への参加はないが、子どもはカフェに参加したい・させたいという方の参加の割合が高い。</p>
